

高校生の性意識と個人および学校レベル要因との関連について

琉球大学医学部
高倉実

平成18年度文部科学省委嘱
「性教育の実践調査研究事業報告会」

沖縄県立総合教育センター
2007年1月23日

University of the Ryukyus

学校における性教育の目的

- 人格の完成と豊かな人間形成, 意志決定の能力を身に付け, 望ましい行動を取れるようにすること (文部科学省)

- 性感染症・望まない妊娠の予防(公衆衛生)
 - 性交開始年齢の遅延
 - 安全な性行動への行動変容



禁欲教育+予防教育(避妊・感染予防)

University of the Ryukyus

効果的な性教育を実施するために

- 高校生の性行動の実態と関連要因の把握
- 本調査
 - 性意識のみ(性行動の予測因子の一部)
- 本分析の目的
 - 生徒の性意識と個人的要因との関連
 - 生徒の性意識と学校要因, 教員要因との関連

University of the Ryukyus

思春期の性行動の予測因子

(Buhi & Goodson, J Adolesc Health 2007;40:4-21)

1. 性交意図
2. 環境的制約の欠如(家に一人でいる時間が長い)
3. 必要なスキル(コミュニケーション, 交渉, 断る)
4. 社会規範的圧力(仲間や親の性に対する態度)
5. 行動と個人的基準の一致(結婚まで性交しないと自己基準)
6. 行動に対する情緒反応(恐れ, 恥ずかしい)
7. 行動に対する態度(積極的-消極的)
8. 行動に対する自信(self-efficacy)

University of the Ryukyus

調査対象

- 沖縄県全域の高等学校30校
 - 生徒調査
 - 第2学年1学級の生徒
 - 回答者925名(男子459名, 女子435名, 不明31名)
 - 教員調査
 - 同校の教員
 - 回答者889名(男性490名, 女性393名, 不明6名)
 - 学校調査
 - 同校の教頭

University of the Ryukyus

従属変数(性意識項目)

- 性交意図
 - あなたは, 親しくしている人に性交を求められたら, どうしますか
 - 「よく話し合い性交しない」or「絶対拒否する」
- 規範意識
 - あなたは, 高校生が性交することについて, どう思いますか
 - 「高校生までしない方がよい」or「結婚するまでしない方がよい」
- エイズ態度
 - あなたは, エイズなどの性感染症についてどのように考えますか
 - 「自分にも感染する可能性があるので気をつける」

University of the Ryukyus

独立変数(関連要因)

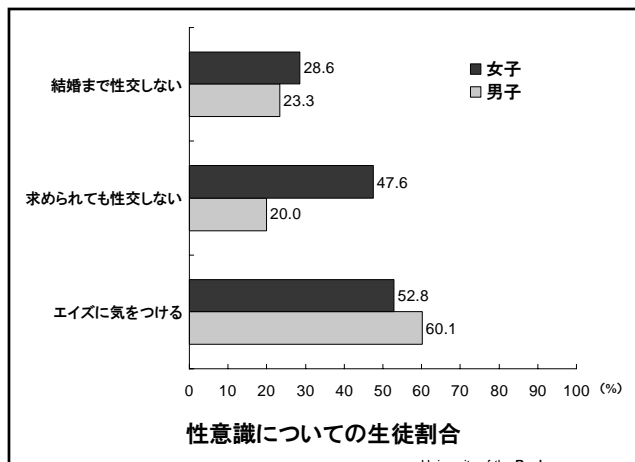
- 個人的要因
 - 両親との同居, 家の居心地(楽しい), 家で話す頻度, 相談友達の有無, 携帯メールの利用, 出会い系サイトの利用, 自己肯定感(自分が好き), 喫煙経験, 飲酒経験
- 学校要因
 - 性教育として単独の年間計画の有無, 昨年の校内研修会の有無, 保護者への説明の有無, 小集団(個別)指導の有無, 昨年の外部講師による指導の有無, 性教育の実施時間の多少
- 教員要因
 - 現任教1年目の教員割合, 性教育はとても重要と思う教員割合, 性教育は全職員で指導にあたると思えている教員割合, 昨年研修会に参加した教員割合, 性について家庭で教えるべきと思う教員割合, 昨年度性教育を自分で実施した教員割合
 - 全体割合を境に多少の2群に分けた。

University of the Ryukyus

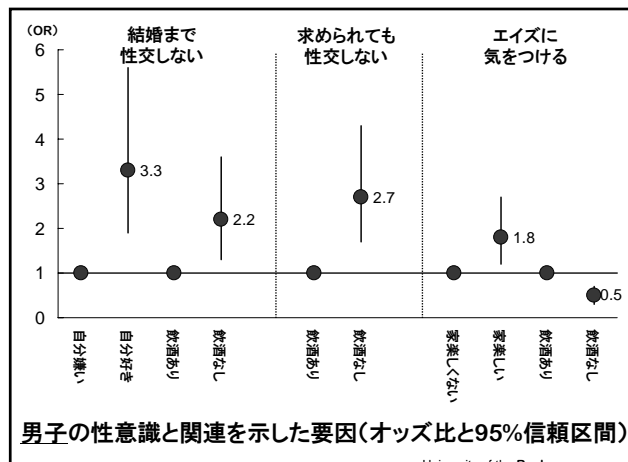
分析方法

- 単変量解析(χ^2 検定)で有意な関連の認められた要因を独立変数, 各性意識項目を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析を行い, 各性意識と独立に関連する要因の抽出を試みた。
- 変数のカテゴリ数が3以上の場合は2値変数に変換し, 喫煙経験と飲酒経験については, 飲酒経験のみを用いた。

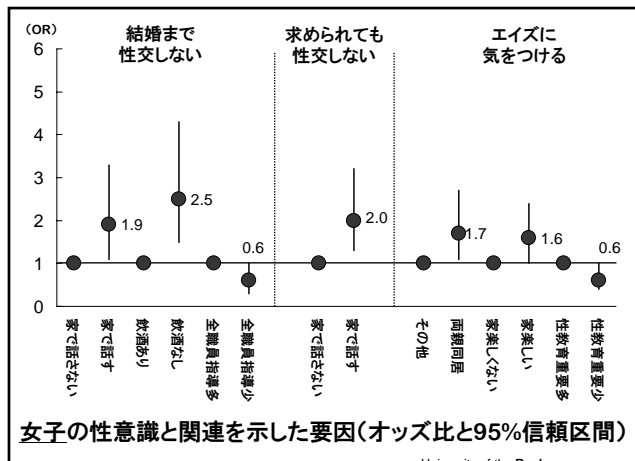
University of the Ryukyus



University of the Ryukyus



University of the Ryukyus



University of the Ryukyus

結論

- 男子の性意識には, 自己肯定感と飲酒経験, 女子の性意識には, 親子関係や家庭環境といった個人的要因が独立して関連しており, これらは高校生の性意識を高める際の重要な要因になるとともに, 性別に考慮する必要があることが示唆された。
- 学校要因や教員要因については, 女子に若干の影響がみられたが, 個々の生徒の性意識に一貫して影響を及ぼしているかは明確ではなく, 集団レベルの要因よりも個人レベルの要因の影響が強いことが示唆された。

University of the Ryukyus